

2017/2/27

(日々雑感 36)



男の場合「この期に及んでまで意地だの虚勢だの張ってられるかっ！！」

と言ったとすれば、それは嘘です。

この期に及んだからこそ、意地と虚勢を張りまくるのが男です。ますます張りまくるのが男の性（さが）です。そうでもして格好をつけないと切り抜けられないのです。いや、そのやり方しか知らないのです。上述の「この期に及んで、張ってられるか！！」の言は、それ自体、まさに意地と虚勢そのものなのです。

そのことにうすうすは気づきながらも、止めるに止められず、ますます辛い、抜き差しならぬ方向に歩みを進めてしまうのが男なのです。それが男のメンツとか男の沽券と言われるものの正体なのです。

女の方は、この期に及んだらあっさり意地も虚勢も捨てているようですから、そんな男の不可解さが恐らく理解できないのだと思います。メンツとか沽券という単語の存在自体はしっいても「分かりやすい言葉に訳しなさい」と言われると、できないのだと思います。そうして、男にとって一番辛い「この期に及んだ」その時期に、突如別れが訪れたりして、動転失意の中、ますます更に意地と虚勢を積み増していき、最後には訳の分からないものになってしまう。

あるいは、そこまではいなくても、退職という一種の「この期に及んだ」時に、いよいよ増して、いや増して、気むずかしげに偉そうな顔をして街を歩いたり、コーヒーショップですることもないのに、やまほどありそうな顔をして半日も掛けて本を読んだりすることは多々あります。

それさえ分かっていたら、いい歳していても、何のことはない、その辺の肩で風切って歩いている高校生のお兄ちゃん達と大差は無いのだとわかるのですが、そんなことあからさまに言われたら、ぼくだったらばつの悪さのあまり、頓死してし舞いそうなことを思うと、そうそう皆さんもそのことには触れられないのが実情でしょう。

そんなわけで、恐らくこれまでぼくの書いてきたものも、意地と虚勢に充ち満ちているの

だと思ひます。これをお読みくださっている、なかんずく女性の方は、男とはそういう生き物なのだと思ひなしてお許し頂けると今日只今のぼくとしては、誠にありがたいのですが、いかがなものでしょうか？

追記)

全く関係ないのですが、今日は亡くなったお袋の誕生日でした。南無阿弥陀仏。